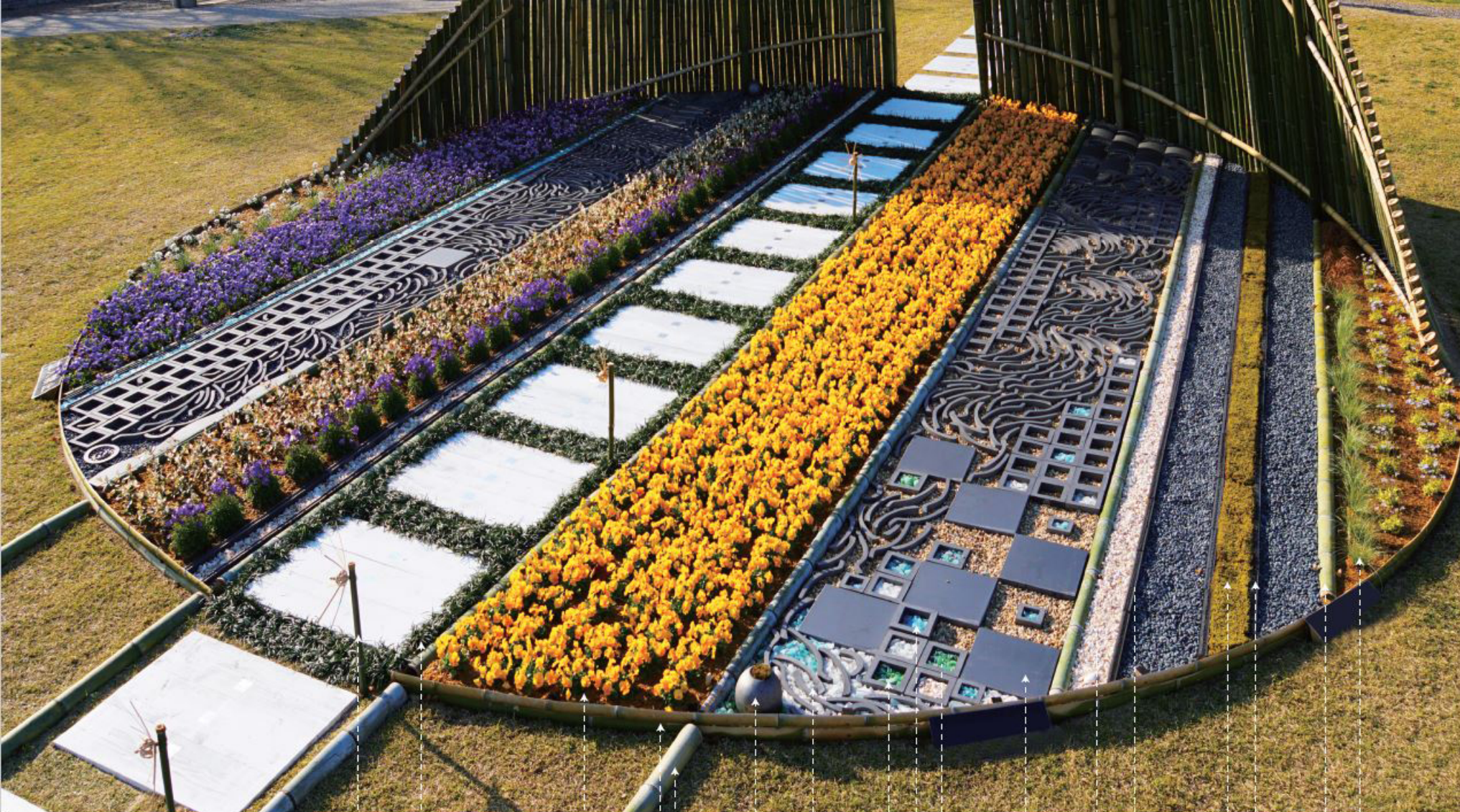




ガーデンの南は海。作品は海の景とつながる景観演出を図った。



海に向かった景観軸。竹製の風車は海風の動きを感知して回転し、空気の流れを可視化したことで、五感を駆使した体験を促した。

ガーデンの北部入口にケーブルドラムの廃材を活用した硝子盤を設置し、青空を映すことによって天空の縮景も演出。



メインガーデン

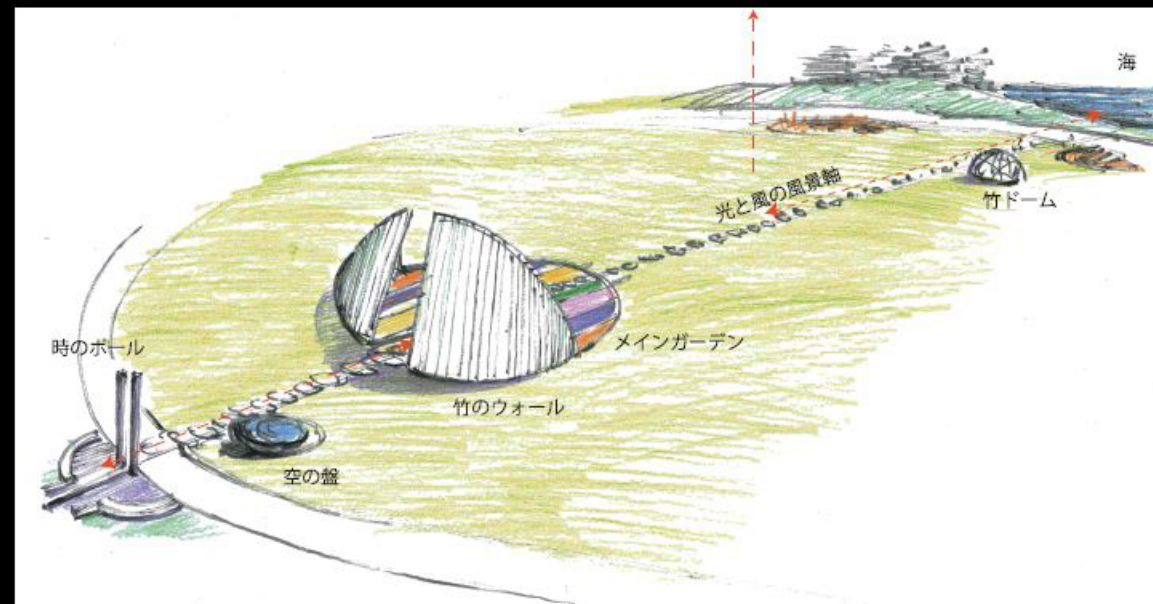
竹の風車 タマリユ ピオラ 竹 淡路瓦 シーグラス シーグラス 淡路瓦 貝殻 淡路瓦 砂苔 淡路瓦 竹 カレックス

冬至 10 時の光にあたる光のライン

冬至 10 時の太陽光に沿って道と多数の風車を配置、ここで光と海風を感知し、陸と海をつなげる風景軸を体感する。



時のボール



作品について：

SDGs の目標 15「陸の豊かさを守ろう」をキーワードに、淡路島内で拡大する放置竹林に着目し、山から間伐した竹を主な材料としてガーデンを作成した。ガーデンの中央には、冬至 10 時の太陽の位置に向かって、海への風景軸を竹の風車を用いて誘導し、陸と海を景観的につなげていくと同時に、風車の動きによって光と影の変化や空気流動の“見える化”を工夫した。また、淡路島生産の花や瓦を用い、加えて学生たちが海岸から拾ってきたシーグラスや貝殻など地域特有の材料を活用し、地域特徴のあるガーデンづくりを図った。